

[大学情報入試の動向]

4 高等学校から見た情報入試



稲垣俊介 東京都立神代高等学校



高等学校への影響

2025年度から大学入学共通テストに「情報」が導入されることが決定し、「情報」が正式な受験教科となることが確定した。この重要な変化は、情報科の教員である私に不安を引き起こすとともに、「情報」が世間において重要な教科としての認識を得られたことに対する心からの喜びを感じさせている。長年、高等学校において「情報」を教えてきた者として、この教科が大学受験に必要なのだと評価されることは、時代の進歩を象徴していると感じている。

しかし、この新たな地位には重大な責任も伴う。ほかの受験教科と同様に、生徒や保護者、さらには社会全体からの期待が高まる中で、教員としてのプレッシャーも増大する。これまで以上に、「情報」の教育内容や指導方法に対する要求が厳しくなることが予想される。しかし、私はこの変化を「情報」の大躍進の契機と捉えている。情報入試の導入により、これまで以上に多くの人々が「情報」という教科に興味を示し始めており、それは教科の発展にとって非常に有益なことである。

この新たな状況は、書店で並ぶ大学入試用の情報参考書の増加や、大手予備校における情報講座の新設、さらにメディアでの注目度の高まりなど、具体的に目に見える形で現れている。これにより、「情報」という教科の注目度は以前にも増して高まり、

より多くの教育関係者や一般の人々が情報教育に関心を持ち、良質な教材や授業方法の開発に寄与していくことが期待される。この変革の波は、教室の中だけでなく、社会全体における情報教育の重要性を高めている。

「情報」の教員としての使命は、ただ知識を伝えるだけでなく、生徒たちが情報社会の一員として活躍するための重要な情動的思考力を身に付けることを支援することである。そのためには、常に最新の技術動向に精通し、それを教育現場に反映させる柔軟性が求められる。また、「情報」の教育が、生徒たちにとって単なる試験対策ではなく、実生活において役立つ知識や情動的思考力を育むものであるよう努めることが重要である。

これからの時代は、「情報」が単なる教科の1つではなく、生徒たちの将来に直接影響を与える重要な教科として位置付けられる。教員として、この責任を果たすべく、情報教育の質を高め、生徒一人ひとりの可能性を引き出すために尽力する所存である。また、情報教育が生徒たちのキャリアや人生において価値のあるものとなるよう、教育内容の充実と質の向上に注力し続けることが重要である。

高等学校での情報教育の歩み

日本の高等学校における情報教育は、その起源は1970年改訂の高等学校学習指導要領¹⁾に「電子

「計算機」を扱う科目が、工業科、商業科、水産科、理数科に登場したところから始まり、高校教育における重要な変革の一部として位置づけられている。この時代、高等学校の専門教育の一環として初めて情報処理に関する教育が取り入れられ、その後の教育改革において中核的な役割を果たし始めた。1989年の学習指導要領の改訂では、中学校²⁾および高等学校³⁾の多くの教科に情報に関する教育内容が組み込まれた。これにより、生徒は、社会科、公民科、数学科、理科、技術・家庭科、家庭科（高等学校のみ）といったこれまでの教科において、情報に関する基礎やその応用についての知識を学ぶ機会を得た。

1998年の学習指導要領の改訂⁴⁾では、「情報」が正式に普通教科として認定され、生徒たちは「情報A」「情報B」「情報C」の選択科目の中から、少なくとも1つを履修することが義務付けられた。この変更により、「情報」は普通科教育における確固たる位置を占めることになった。

2008年の学習指導要領の改訂⁵⁾では、「情報」がさらに整理され、「社会と情報」および「情報の科学」の2科目から選択することとなった。これにより、生徒たちは情報技術と社会とのかかわりや、情報科学の基礎理論について深く学ぶ機会を得ることとなった。これらの科目は選択必修とされ、高等学校における情報教育の幅と深さが一層強化された。

そして、2017年の学習指導要領の改訂⁶⁾では、情報教育がさらに進展した。すべての高校生が履修すべき共通必修科目として「情報I」が設定され、さらに選択科目として「情報II」が追加された。これにより、「情報」は高校生の教育カリキュラムにおいて不可欠なものとなり、生徒たちは「情報I」を基礎として、より専門的な「情報II」を選択することが可能となった。この変更によって、「情報」は、生徒たちが現代の情報社会に適応し、その中で活躍するための重要な教科として学ぶことになった。

これらの教育改革を通じて、日本の高等学校にお

ける情報教育は、時代の変遷とともに発展し、生徒たちが21世紀の社会において求められる情報活用能力を身に付けるための重要な土台を築いてきた。この歴史的な変遷は、私たちの日常生活や社会における情報の役割がどのように変化し、進化してきたかを物語っている。

高等学校「情報」のこれまでとこれから

2025年度から始まる大学入学共通テストにおいて、「情報I」の導入が決定されたことは、高校教育における重要な節目であると言える。これにより、「情報」は正式な受験教科としての地位を確立した。この変革は、本会の情報入試委員会を含む関連団体の継続的な努力と支援の結果であり、私も高校教員の立場からこの委員会に参加し、この大きな変化の一助を担うことができたことを大変光栄に思っている。

私たち情報科の教員は、「情報」が受験教科となる前からの教育の経験と教訓を忘れてはいけない。それは、生徒たちが本当に興味を持ち、それを引き出すような授業を継続的に行うことである。情報が受験教科となる前、私たちはほかの受験教科にない特有の困難に直面してきた。その一例として、ある公立高校の3年生に「情報の科学」を教えた際のエピソードを紹介したい。生徒たちは受験生であるにもかかわらず、授業に真剣に取り組み、多くの生徒が「情報」の授業を面白いと授業アンケートでも評価してくれていた。しかし、生徒の間の何気ない会話や感想には、残念に思うものが多くあった。たとえば、「実習が面白く、受験勉強の息抜きになる」「主要教科ではないが、やりがいがある」などの会話や、「副教科でありながら興味深い授業をしてくれてうれしい」「情報系進路を希望しているが、受験教科に含まれていないのは残念」といった感想である。これらは、当時の高校生から見た大学入試教科ではない「情報」に対する率直な見解を表している。このような言葉を耳にするたびに、必修教科・

小特集 Special Feature

科目でありながら受験には利用しない教科・科目を教える特有の困難さを実感していた。これに打ち勝つため、より優れた授業を提供する努力を続けた。また、教科「情報」の研究発表などで多くの創造的な教育実践が共有されてきた。このような困難があり、それに打ち勝ってきたからこそ、これからは、「情報」が生徒にとって、単に「試験に出るために学ぶ」教科ではなく「興味があるから学ぶ」教科であるような授業を設計し続けることが求められる。

この「情報」に対する生徒の素直な感想は、ほかの教科の教員も共感していたかもしれない。「情報は大切な教科だが、入試には関係ない」という考えが主流であった。しかし、「情報」が入試教科となることで、その見方が大きく変わった。学校外からの情報、たとえばメディアや受験産業からの資料でも「情報」がクローズアップされ、記事になっている。生徒たちが大学入試に必要なとするならば、その準備を怠ってはならない。このような考えのもと、高校は大きく動いている。

大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の導入は、生徒たちが情報とその応用を深く理解し、情報社会の一員として活躍するための基礎を築くための重要な一歩である。「情報」の教員としての私たちの役割は、ただ知識を伝えるだけではなく、生徒たちが情報を効果的に活用し、将来的に社会に貢献できる、知識および技能を基礎とする情動的思考力を身に付けることを支援することにある。そのためにも、教育内容を常に最新の情報技術の進歩に基づいて更新し続け、生徒たちの興味を引き付ける工夫を凝らすことも不可欠である。また、情報教育が試験対策だ

けではなく、実生活や将来のキャリアに役立つ知識や技能、さらには情動的思考力を身に付けられる教育となるよう、努力を続けなければならない。

このような教育的取り組みを通じて、「情報」が学術的な枠組みを超えて、生徒たちの将来にとって実質的かつ価値あるものとなることを目指していく。私たち情報科の教員としての責務は、教育の質を高め、生徒たちの個々の能力と可能性を最大限に引き出すことにある。そして、これからの時代において、情報教育は、生徒たちが社会で成功するための重要な基盤となり、さらに生涯教育の1つとなると考える。

参考文献

- 1) 文部省, 高等学校学習指導要領(昭和48年4月施行), <https://erid.nier.go.jp/files/COFS/s45h/index.htm> (2023年11月10日参照)
- 2) 文部省, 中学校学習指導要領(平成5年4月施行), <https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h01j/index.htm> (2023年11月10日参照)
- 3) 文部省, 高等学校学習指導要領(平成6年4月施行), <https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h01h/index.htm> (2023年11月10日参照)
- 4) 文部科学省, 高等学校学習指導要領(平成15年4月施行), <https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h10h/index.htm> (2023年11月10日参照)
- 5) 文部科学省, 高等学校学習指導要領(平成21年3月告示), <https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h20h/index.htm> (2023年11月10日参照)
- 6) 文部科学省, 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示), <https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h30h/index.htm> (2023年11月10日参照)

(2023年11月13日受付)

稲垣俊介(正会員) <https://inagaki-shunsuke.jp/>

東京都立神代高等学校情報科主任教諭, 本会情報入試委員会, 本会情報科教員・研修委員会, 本会誌『情報処理』編集委員会委員, 2023年の夏に開催した, 全国高等学校情報教育研究会全国大会(東京大会)の事務局長を務めた。著書は共著で, 教科書『情報Ⅰ図解と実習』(日本文教出版)などがある。